


特集

新入社員 への 手紙

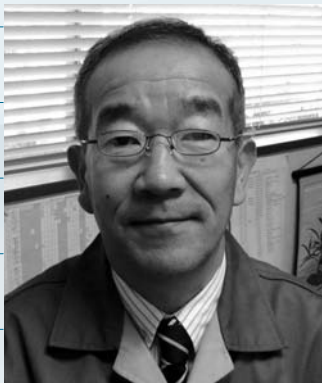
新入社員の皆さん、これから皆さんが歩いていく「土木の道」。その道を明るく照らしてくれる先輩方から、温かい励ましの言葉をいただきました。皆さんが、これから社会人として、土木技術者として大きく羽ばたいていけるよう、このメッセージを真摯に受け止めて、ぜひ今後の糧にしていただければと思います。今回は、当技士会が実施する「1級土木施工管理技術検定試験受験準備講習会」の講師の方々、そして平成19年度の講習会を受講され、その後「1級土木施工管理技士」の試験に合格した先輩からのアドバイスです。

いつも笑顔で、感謝・感激を忘れない 我々は快適な市民生活を守る縁の下の力持ちです!	2
(株)熊谷組 圏央道城山八王子トンネル作業所 所長 大塚 俊英	
基本は人との「コミュニケーション」	4
前田建設工業(株) 砂町作業所 所長 (現 土木本部 部長) 諏訪 博己	
輝きある土木技術者に	6
大成建設(株)東京支店 土木部技術部 課長 小林 敏彦	
 “仕事は楽しく” がいいものをつくる	8
日本道路(株) 神奈川支店 相模原出張所 工事課 栗本 愛	

いつも笑顔で、感謝・感激を忘れない

我々は快適な市民生活を守る

縁の下の力持ちです!



(株)熊谷組 圏央道城山八王子トンネル作業所 所長

大塚 俊英

未来の国土建設を担う土木技術者の皆さん、入社おめでとうございます。

道路特定財源見直しや公共工事削減論など、我々への逆風が強く吹いております。皆さんご存知のように土木の語源は中国の春秋時代の古典「淮南子（えなんじ）」に出てくる築土構木、英語では"Civil engineering"と呼ばれており、軍事以外の部門、主として民生に関した工学、市民のための工学であると言われております。フォークソングの神様と呼ばれた1970年代の歌手、岡林信康さんの「山谷ブルース」の歌詞の中に、土木作業員が「*だけどおれ違いなくなりゃ ビルもビルも道路も出来やしねえ」と歌うくだりがあります。多くの土木工事は皆さんもご存知のように他業界と比べ華やかさもありませんし、なかなか脚光も浴びません。泥臭くても市民の皆さんの生活に必要な基盤を黙々とつくりあげていく、それが土木本来の持つ美学だと思いませんか？

私が入社して配属されたのは中国地方島根県北部、日本海沿いの人口約100名程度の寒村に向け島根山地を貫いて生活用道路トンネルを建設する現場でした。冬場は峠越えの狭

※ JASRAC出0803491-801

隘な道路が凍結のため通行止めとなり、プロパンガスなども背負って運ぶほどで、陸の孤島と呼ばれたこともあったそうです。長年の住民の願いがかないトンネルを着工することとなったわけですが、当時の住民の方々の温かい励ましや協力は約33年たった今でも忘れることはできません。知らない間に現場の事務所にバケツで海産物が届いたり、夏場には我々を家族ぐるみで公民館に招待して頂いたり、このトンネルにかける住民の皆さんの熱い思いがひしひしと伝わり、1日でも早く完成をさせるんだ、との意気込みで頑張った記憶があります。最後の貫通はちょうど冬場で、トンネル上部の最後の土砂を取り除くと、どんよりとした雪混じりの日本海が見えました。冷たい風をものともせず、ヘルメットにカッパ姿でトンネルを這い出て、涙で汚れた顔でバンザイをした記憶があります。

今は、都市型土木の増加や環境制限、近隣住民の方々の意識の変化にともない我々を取り巻く環境は厳しくなっています。昔は測量と現場の追い回しをやっていたのだけれど、今は土木本来の技術取得だけでなく、品質や環境、安全についてもたくさん勉強する必要があります。現場や本社支店での業務の他に、皆さんの会社はOJT（現場での日常業務による教育訓練）という社員教育を予定していると思いますので、その機会を有効に活用してどしどし知識を吸収して行ってください。そして、第1の目標として1級土木施工管理技士の免許取得を目指してください。将来の現場代理人や監理技術者になる必須資格です。

これからは様々な人と出会うことになりますが、いつも笑顔で、感謝・感激を忘れない心優しく強い信念を持った土木技術者になられることを希望します。

一緒に頑張りましょう！



基本は 人との「コミュニケーション」



前田建設工業(株) 砂町作業所 所長 (現 土木本部 部長)

諏訪 博己

新入土木技術者の皆さん、入社おめでとうございます。「入社」は、人生の非常に大きな節目のひとつであります。一時期、終身雇用の崩壊、転職の自由など、いろいろ耳にしましたが、日本の会社は、再び終身雇用制の長所、企業の発展のために従業員が一所懸命に取り組む点に注目しています。この傾向は、厳しい環境にある建設業界でも、例外ではありません。自分で選んで入社したからには、そこで、骨を埋めるつもりで精一杯努力し、自分を磨くことが、会社の発展にも繋がる、と考えるからです。

私も自分で選んだ会社に入り、二十数年経ちます。さて、その会社生活の中で最終的に「これが大切」と思えることは、実は業務知識や技術・技能ではなく、「人とのコミュニケーション」であると思います。特に現場では、作業所職員、協力会社職長・作業員、発注者、各関係企業者、近隣住民等、多彩な方々との接点があります。現場の所長の使命は、いかにコミュニケーションを上手に図るかです。時には利害の相反する方々と相互理解を深め、信頼関係を高め、円滑かつ効率的に現場を運営しなければなりません。新入社員であ

る皆さんは、もちろん業務知識や技術・技能を高めることが先決ですが、常にコミュニケーション能力を高めることも意識して仕事をしてほしいと思います。

入社後、しばらくすると必ず壁にぶつかります。仕事上の失敗、上司・先輩や協力会社責任者や作業員とのトラブル、残業等制約時間の多さによる心身上の疲労等です。特に、現場に配属された人は、〇〇作業所という組織の中で限られた先輩・上司との人間関係が主体となるため、些細なすれ違いから悩み、塞ぎ込んでしまうケースを耳にします。そこで、大事なのが「コミュニケーション」です。「こんなことを相談したらバカにされるかな」と思っても、格好を気にせずありのまま先輩・上司に相談することです。そして、同期入社のコミュニケーションを大事にして、いろいろ話す機会を持つことです。同期生には、自分より厳しい環境で頑張っている人、反面、先輩も多く、相談しやすい環境にあり楽しく仕事をしている人もいるでしょう。前者は自分への励みとなり、後者は見方を変えれば「これから楽しくなる」という期待へと繋がることでしょう。

最後に、私の「現場の所長」の立場で、現場でコミュニケーション能力を高めるためのポイントを、述べます。

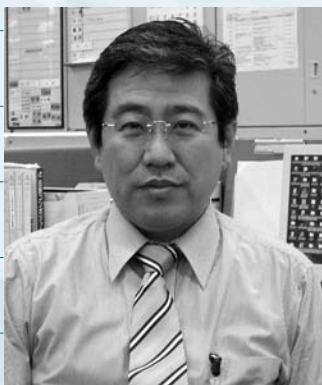
○先輩、協力会社職長、作業員に積極的に接し、話によく耳を傾ける。協力会社はその道のプロが多く、職長や作業員の自分にはないものを聞き出すことは、技術・技能の向上に繋がる

○わからないことがあれば、いろいろな人に何でも聞く。私生活面でも遠慮せず、先輩・同僚に何でも相談する

○失敗（トラブル、異変、不明な点）は先輩にすぐ報告。些細なことだと思っても、場合によっては致命的な手戻りになりかねないので、気づいたら、すぐに、正確※に報告すること

※ 正確に伝えるには、5WIH(who・when・where・what・why・how)を念頭に置き、話をするこ

輝きある土木技術者に



大成建設(株)東京支店 土木部技術部 課長

小林 敏彦

土木分野の新社会人になられた皆さん、ご就職おめでとうございます。

これから実社会に一步を踏み出す皆さんは、期待と不安を抱きながらも新たな希望を持って新生活をスタートされることと思います。そうした皆さんに向けて、土木系社会人の先輩として私が感じてきた「土木技術者」への想いについてお伝えしたいと思います。

私が入社したころは、円高不況から「バブル景気」への移行期で、入社早々配属された部署では仕事のあわただしさが漂っていました。

先輩社員たちは猫の手でも借りたいような状況でしたから、入社直後の私でも小さな戦力として扱ってもらって仕事のやりがいを感じる反面、残業の日々にクタクタになって通勤していたことを思い出します。そんななかで、「早く一人前の社員として仕事をこなせるようになりたい」という思いを抱きながら、入社後の数年を過ごしていたように思います。

仕事に追われる日々のなかで、先輩社員や上司の仕事ぶりに憧れを感じて、自分に磨きをかけたいと思うことは、おそらく皆さんも同じように感じることでと思います。

そうした実務的な仕事の能力というものは時間の経過とともに必ず向上し、5年ほど経過すれば、ほぼ一人前の社員として活躍できるようになっているでしょう。私も30代前

半には、「部下と上司の間で実務最前線をやっているんだ」という自信めいたものを持っていたと思います。

しかし、私は入社から10年目で、ハッと気づかされることがありました。

それは、信濃川の大河津分水路の工事に関与して現場を訪れたときでした。そこには昭和6年に建てられた信濃川補修工事竣工記念碑が置かれています。明治～大正～昭和初期にかけて幾多の洪水・治水被害を被る越後平野の市民を守るため、昼夜を分かたぬ突貫工事を行い、苦闘の工事竣工を記念して建立されたものです。その碑には内務省新潟土木出張所長であった青山士（あきら）氏の碑文が刻まれています。

「萬象二天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ」「人類ノ為メ国の為メ」

その銘文を見て、先人の土木技術者としての責任と誇りを感じるとともに、同じ「土木」の世界に生きるものとして魂を揺さぶられる思いがしました。それまでの私は社会人＝会社人と勘違いしてはいなかったか？ としばらくその石碑から目を離すことができませんでした。

新社会人の皆さんの多くが、会社の一員として成長していかれることと思います。会社が求める社員像に近づくと研鑽されることでしょう。特に若い時期は能力以上に仕事量が多く、わき目を振るような余裕がないかもしれません。しかし、ときにはフッと力を抜いて自分を客観的に見てください。私は、仕事の内容に悩んだり詰まったりしたときに、碑文を見たときのことを思い出します。そうすると、気持ちがりセットされたようにスッキリ判断できることがあります。

私たちは、人々の暮らしに役立ち、後世に残る構造物を創る「土木技術者」です。その誇りを胸に秘めてこれからの社会生活をおくってください。その秘めたる思いはきっと皆さんと周りの人々を幸せにするに違いありません。

皆さんが、輝きを持った「土木技術者」となれることを期待しています。



日本道路(株) 神奈川支店 相模原出張所 工事課
栗本 愛

“仕事は楽しく”が いいものをつくる

経験を積み、勉強していくしかない

Q 前職はシステムエンジニアだったと伺いました。土木業界のどんな所に魅力を感じて現場監督に転身されたのでしょうか？

現場監督というのは現場を任されて、工事を動かしていきます。何千万、何億というお金を管理して、そのお金で作業員の給料を支払い、そのお金が作業員の生活を支えていく。まるで小さな会社の社長のようなもの。転職した時は20代前半でしたから、その年でそんな経験ができるなんておもしろいなと思ったんです。

もう一つおもしろいと感じたのは、1～2年前には存在しなかった道路や橋が、完成後はその地域になくてはならないものになっているところです。

Q 日頃、仕事をするうえで心がけていることは？

“仕事は楽しく”です。浮かれてやるということではなく、楽しい気分で作るということで、そうすれば、いい仕事ができるし、一緒に働く人も気分がいいはず。そして無事故にもつながると思います。

だから、日頃から作業員にも気分よく仕事してもらえるように心がけています。最初の頃はどうしたら自分の目指すものをつくってもらえるのかがわか

らず、ただ命令口調になってしまっていました。でも、現場監督を長くやっていると、ちょっとした言葉の使い方や指示の出し方など、それぞれの人が楽しく仕事ができるポイントがわかってくるんです。

Q では、この仕事のおもしろさとは？

元請さん、施主、現場の作業員と「ああでもない」「こうでもない」と言いながら、仕事を進めていくのが楽しいですね。

たとえば現場でトラブルが起きて頭を抱えていても、その一方で“じゃあ、どうしようか”と次を考えるのが楽しい。結局、現場って、その連続なんです。それぞれの現場で求められているものを見極め、個々の作業員の特性をつかみながら指示を出していくことが大切です。そのためには経験をやるしかありません。後は仕事をしながらでも、勉強を続けていくことだと思います。

責任と権限のある仕事がしたかった

Q 今年、1級土木施工管理技士に合格されましたが、受験勉強なども仕事に役立っていますか？

そうですね。4度目のチャレンジでようやく合格したのですが、勉強自体が自分のためになるからこ

そ続けられた部分も大きいです。

普段から、設計図があっても、現場では「本当にこれで大丈夫なのか」という気持ちを持って仕事をしています。そして疑問を感じたらすぐに確認するようにしているのですが、やっぱり自分の知識に自信がないと、なかなか「これで大丈夫？」とは言えないんですね。

もちろん、従来の考えが通用しない新工法を採用している場合も多いですから、常に聞いたり、情報収集をしていくしかありません。そこが学生のときとは違うところだと思います。

Q 土木施工管理技士合格の決め手は？

不合格だった3年間は直前1か月の勉強で合格しようとしていましたが、やはり無理でした。それで、去年は4月から毎週日曜日は図書館で1日勉強するようにしました。そうやって“勉強しできない環境”をつくったことが一番大きいですね。あとは技士会の講習に参加するなど、中身の濃い勉強を心がけました。講習会では単に数値を暗記するのではなく、実際の現場の体験を例に出しながら解説して

もらえるので理解しやすかったです。

この資格を取得できたことで、今後は現場で決定権を持てる立場になります。もっと責任と権限のある仕事がしたかったので、うれしいですね。

Q では最後に、これから建設業界で働く新入社員へのメッセージと今後の抱負をお願いします。

今、建設業界への世間の風は冷たいですが、信用を得ていくためには、誰にも必要だと思われるような仕事をしていくしかないと思うんです。自分たちが、今やっている仕事が、将来、建設業界への評価につながるということを忘れずにいてほしいと思います。

誰だって結婚して子どもが生まれたら、安全な所で育てたいと思いますよね？ この仕事は安全な社会をつくっていくことに貢献できる仕事なので、常にそのことを意識して仕事してほしい。僕自身、少なくとも自分のつくったもので人がケガをしたり、すぐに補修しなければいけないということのないように、10年後、20年後も残っていくものをつくっていきたいと思っています。



栗本さんが、最近担当した現場（最終処分場でのコンクリート舗装工打設の様子）